

# 学習課題(中学校2年生)



## 【理科】

### <学習内容> 「大気の動きと日本の四季」

○教科書「陸と海の間の大気の動き（P111～112）」、「日本の四季の天気（P113～121）」、「天気の変化がもたらす恵みと災害」（P122～125）」を読んで、陸と海の間で大気の動きが生じる理由や、気団の変化と日本の四季の天気の関係、天気と生活の関わりについて考え、まとめてみよう。

### <取り組み方>

- (1) 教科書 P111 の「図 48」「図 49」「図 50」を参考に、陸と海（水）のあたたまりやすさには、どのような違いがあるか考え、まとめてみよう。
- (2) (1)をもとに、海風と陸風がふくしくみ、夏と冬で季節風のふく向きが変わる理由について考え、説明してみよう。
- (3) 教科書 P113～114 を読み、日本付近で発達する気団と日本の冬の天気の特徴について考え、図や言葉を用いてまとめてみよう。
- (4) 教科書 P115～118 を読み、冬から春、夏、秋へと変わる季節の天気や梅雨・台風が起きる要因と天気の特徴について考え、まとめてみよう。
- (5) 教科書 P119～121 の「探Q実習2」に取り組み、明日の天気を予想し、実際に次の日に確かめてみよう。
- (6) 教科書 P122 の「ためしてみよう」において、自分の住んでいる地域や札幌市全体について調べ、まとめてみよう。

### <学習のヒント>

- (2) 気温が高い場所付近の空気は温まり、上昇気流が発生するため、地表の気圧が低くなることに着目しましょう。
- (3) 札幌市で生活している実体験や、社会科の地理で学習した内容と関連付けながら、日本海側と太平洋側の違いに着目し考えてみましょう。
- (3) 季節とともに起こる気団の発達と衰退がどのように季節の天気に影響するのかや、どのような前線や雲が発生するのかに着目し考えてみましょう。
- (6) インターネットで札幌市のハザードマップを調べたり、学校で「災害から身を守るために」のパンフレットが配付されている場合は、それらを参考にしたりするとよいでしょう。